

2025年度
浜松市立看護専門学校
一般入学試験(2期)問題

国 語

《 注 意 事 項 》

- 1 試験監督の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
- 2 解答用紙には受験番号と氏名を必ず記入してください。
また、受験番号を直下のマーク欄にマークしてください。
- 3 解答の際は、各問題で選んだ解答番号をマークしてください。
- 4 試験中に問題冊子の落丁・乱丁に気づいた場合は、手を挙げて、試験監督に知らせてください。
- 5 試験中の途中退室は原則として認めません。
ただし、気分が悪くなった場合やトイレへ行きたくなくなった場合は、手を挙げて、試験監督の指示に従ってください。
- 6 問題冊子及び解答用紙の室外への持ち出しは禁止します。
- 7 試験終了後、問題冊子及び解答用紙はすべて回収します。

第1問 次の文章は、大竹文雄著『行動経済学の使い方』（岩波新書2019）からの一文です。本文をよく読んで、以下の問いに答えなさい。

(1) ゴルフのトッププロ選手にも損失回避行動が観察されるということを示した研究がある。その研究では、アメリカのプロゴルファーのデータを使って、損失回避によるバイアスの存在が明らかにされている。プロゴルフのトーナメントは、18ホールを4日間プレーして、その間の①平均打数が最小であったものが優勝する。A 時間的視野は72ホールということになる。しかし、1ホールごとに標準的なホールまでの打数を示すパーが定められているため、多くのプレーヤーは、パーを*参照点とみなし、それよりも多くの打数を打つことを損失とみなす傾向がある。逆に、パーよりも1打少ない打数でホールに入れるバーデーや2打少ない打数のイーグルを利得とみなすと考えられる。パーよりも1打多く打ってボールをホールに入れるボギーや2打多いダブルボギーは損失である。しかし、72ホール全体の打数を最小にすればいいので、毎回のホールによって利得と損失を考える必要はない。

もし、パーよりも打数が増えてボギーになることをプロゴルファーでさえ損失とみなすのであれば、パーを取れなくなることを極端に嫌うために、パーパットでの集中力が他のパットよりも高まるはずだ。研究者たちは、グリーン上でのボールからホールまでの距離など様々な条件をコントロールした上でも、プロゴルファーのパーパットの成功率はバーデーパットの成功率よりも高いことを明らかにした。トップクラスのプロゴルファーでも損失回避によるバイアスから逃れられないことを示したのだ。ゴルファーにとっては、バーデーパットであってもパーパットであっても、同じだけの集中力でパットを打つほうがゴルフの成績がよくなる。

この研究でもう一つ興味深いのは、バーデーパットでは、パーパットに比べて、ホールまでの距離より長いパットではなく、短いパット（ショット）を打ってしまうというミスをしがちであることを示している点である。通常、短めのパットを打つというのは、安全策だと考えられている。バーデーパットでは安全策を取りやすいというのは、利得局面ではギャンブルをしないけれど、損失局面ではギャンブルをしがちになるという損失回避行動と X である。

(中略)

あなたの職場に、生産性の高い同僚が入ってきたとする。あなたの生産性はどのように変化するだろうか。もし、チームで仕事をしていながら、あなたは少し手を抜いても、優秀な同僚のおかげで今まで通りの成果をあげられるかもしれない。逆に、②あなたが生産性を高める可能性もある。

第一に、あなたは優秀な同僚の働きぶりを無意識に参照点にすることで、彼の生産性に追いつこうと努力するかもしれない。他人の生産性や努力水準が参照点となっている場合には、その水準よりも自分の努力水準が低いと損失を感じる。この場合、他人の努力水準が高

まれは、自分の努力水準も高くなるのだ。第二に、あなたが互恵的な*嗜好をもっている場合でも、あなたは努力するようになるかもしれない。生産性の高い同僚のおかげで職場の全員が①恩恵を被っているのであれば、その恩に報いたいと思うからだ。

第三に、社会的なプレッシャーを感じる効果であなたが努力をするようになる可能性もある。生産性の低い労働者は、生産性の高い労働者から見られていると感じることで、生産性が低いことを恥ずかしいと感じるかもしれない。あるいは、同僚の中での評判を落とすことを防ぐために、生産性を向上させる可能性がある。第四に、生産性の高い労働者から知識や技術を学ぶことで、あなたの生産性が高まるという可能性もある。こうした、同僚が他の労働者の生産性に与える影響はピア効果（同僚効果）と呼ばれている。

ピア効果を現実のデータを用いて実証するためには、個人の生産性と同僚の生産性を特定する必要がある。ピア効果が存在する場合には、同僚からの効果と自分から同僚への効果の②ソウホウがあるため、同僚からの影響だけを識別することも必要である。これらの課題を③克服した研究がいくつか存在する。

アメリカのスーパーマーケットチェーン店のレジ打ち従業員に関する大規模なデータを駆使して、ピア効果を測定した研究がある。同じ時間帯に同じ店でレジ打ち作業をしている従業員の情報を用いて、同僚の生産性が高いとその時に働いている従業員各個人の生産性が上昇することを明らかにしたのである。この研究の推定結果によると、同僚の生産性が10%上昇すると、その職場の他の従業員の生産性は1.5%上昇する。興味深いのは、④ピア効果が発生する理由である。

スーパーマーケットのレジでは、従業員が前後に並んで仕事をしている。あなたがレジ打ち従業員だったとしよう。あなたは、自分の前方にいる同僚の仕事ぶりを観察することができる。一方で、自分の後方にいる同僚からはあなたの仕事ぶりが観察されている。あなたは、自分の目の前の同僚の生産性が高い時と自分の後方にいる同僚の生産性が高い時とでは、どちらがより頑張つてレジ打ち作業をするだろうか。

研究結果は、生産性の高い同僚から見られている場合に生産性が高まり、生産性の高い労働者を見ている場合には自分の生産性は影響を受けないというものだった。しかも、後方にいる労働者の生産性の高さを元から知っている場合にも、この効果が観察される。つまり、背中から生産性の高い労働者の視線を感じることで社会的プレッシャーになって努力水準が高まるという仮説と X である。もし、同僚の生産性が参照点になっているのであれば、同僚の働きぶりを見ていることで、自分の生産性が変化するはずである。

レジ打ち作業の場合は、買い物客の会計作業をチームで行うという意味でチーム生産の場面において、同僚からの社会的プレッシャーというルートを通じてピア効果が発生していたのだ。B、この結果を実務で生産性を高めるために応用するのはかなり難しい。レジ打ちの職場では、パートタイム労働者が多く、シフトの変更もある。生産性が高い順に労働者の配置を常に変えていく必要があるからだ。

チーム生産ではなく、労働者がお互い競争的な状況におかれた場合には、他人の生産性に依存するというタダ乗りの余地がない。その場合には、プラスのピア効果はより観察されやすいかもしれない。日本の研究者たちは、⁽⁴⁾ 競争的環境にある人が周囲の影響によって努力水準を変えるかどうかを競泳のデータをもとに分析した。

彼らを用いたのは、日本の小学生から高校生までの水泳大会の100メートル自由形と背泳ぎのタイム決勝のデータである。④ 水泳の大会は、オリンピックゲームのように、予選、準決勝、決勝と勝ち残って最終勝者を決める大会と、いくつかのグループに分けられた選手たちが泳ぎ、すべてのグループのタイムで最も速かった人が優勝するという「タイム決勝」がある。⑤ タイム決勝制度のもとでは、同時に泳ぐグループはベストタイムが近いもので構成されているが、同時に泳ぐ人だけが直接の競争相手ではない。⑥ 優勝するためには、同時に泳ぐ選手（ピア）の実力とは無関係に最大の努力をしなければならない。⑦ それにもかかわらず、選手たちはピアに影響されるのだろうか。⑧

水泳競技のデータは、各選手のそれまでの自己ベスト、どのコースを泳いだか、大会、プールなどの影響をコントロールすることができる。自由形では両隣の選手の場所を確認できるが、背泳ぎでは全く確認できない。したがって、ピアの様子を観察できるかどうかを努力水準に影響を与えるかどうかを検証できる。また、小学校から高校までの大会では、⁽⁵⁾ 干ぐする選手もいるので、両隣のコースに選手が泳いでいないという状況も発生するため、ピアの存在がどのような影響を与えるかも検証できる。

100メートル自由形のデータを用いた研究結果は、つぎのとおりである。水泳選手は、自分より速い選手が隣のレーンにいる時には、両隣に誰もいない時より速く泳げるが、自分よりも速い選手が隣にいと一人で泳いだ時よりも遅くなってしまふ。

ところが、両側の選手の状況を見ることのできない100メートル背泳ぎの場合は、ピア効果は観察されない。これらの結果は、隣のレーンで泳ぐ選手のスピードが参照点になっており、ベストタイムが速い選手に負けることが損失と感じられているという仮説と X である。

ただし、この研究は競泳大会の競争的環境におけるピア効果だけを検出しており、練習を一緒にすることで発生するピアからの学習効果などの長期的な影響は分析できていない。そこで、同じ研究者たちは、水泳選手が所属チームを変更した場合に、加入先チームに元から所属していた選手の成績にどのような影響を与えるかということを調べて、練習を一緒にすることのピア効果を調べた。優秀な選手がチームに移籍してくると、元からいた選手たちのタイムが向上することが明らかになった。努力や技術の向上を通じたプラスのピア効果が水泳競技には存在するようだ。

* 参照点：利得と損失の判断を分ける基準点。

選好：意思決定において、選択対象に対して個人が持つ好み。

問一 傍線部〈a〉～〈c〉の漢字と同じ漢字を含むものを、①～⑤よりそれぞれ一つ選びなさい。

- 〈a〉 ルイセキ
- ① 硬いコウセキを採掘した
 - ② シンセキに会いに行った
 - ③ 校庭のメンセキを求める
 - ④ 彼にセキニンを取らせる
 - ⑤ 急用のためケツセキした
- 〈b〉 ソウホウ
- ① 前例のないソウダイな試み
 - ② 物体がソウゴに引き合う力
 - ③ 病気で学校をソウタイした
 - ④ 各人の意見をソウゴウする
 - ⑤ 彼らは軍のソウヘキをなす
- 〈c〉 キケン
- ① 彼の訴えをキキヤクした
 - ② 社のキミツ事項にふれる
 - ③ キチヨウな宝を入手した
 - ④ 娘の将来をキグしている
 - ⑤ 出場前にキアイを入れた

問二 傍線部〈A〉・〈B〉の漢字の読みと同じ読みの漢字を含むものを、①～⑤よりそれぞれ一つ選びなさい。

- 〈A〉 恩恵
- ① 会得
 - ② 増内
 - ③ 嫌悪
 - ④ 鋭意
 - ⑤ 景色
- 〈B〉 克服
- ① 活躍
 - ② 参画
 - ③ 口実
 - ④ 幽谷
 - ⑤ 国教

問三 傍線部(一)「ゴルフのトッププロ選手にも損失回避行動が観察される」とあるが、その損失回避行動として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① バーディパットの成功率が低いこと
- ② 短いパットを打ってボギーになること
- ③ イーグルを大きな利得と考えること
- ④ パーパットの成功率が比較的高いこと
- ⑤ ボギーを損失と意識しなくなること

問四 空欄 A・B に当てはまる語句の組として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- | | | |
|---|------|------|
| | A | B |
| ① | そして | やはり |
| ② | つまり | ただし |
| ③ | たとえば | つまり |
| ④ | また | そこで |
| ⑤ | だが | そもそも |

問五 三箇所にある空欄 X にはすべて同じ語句が入る。その語句として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 対照的
- ② 近似的
- ③ 適応的
- ④ 示唆的
- ⑤ 整合的

問六 傍線部(2)「あなたが生産性を高める可能性もある」とあるが、その理由として適切でないものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 同僚の周囲の人間関係を良好に保ちたいから。
- ② 同僚の生産性に追いつくために努力するから。
- ③ 同僚から知識や技術を学ぶことができるから。
- ④ 同僚のおかげで受けた恩を返そうと思うから。
- ⑤ 同僚の中での自分の評判を下げたくないから。

問七 傍線部(3)「ピア効果が発生する理由」として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 生産性の高い同僚が自分の前方にいる場合、その仕事を観察できるから。
- ② 同僚の生産性が参照点となって、その生産性を超えることを期待されるから。
- ③ 後方の同僚の生産性が高いと意識すると、社会的プレッシャーを受けるから。
- ④ 生産性の高い同僚が前方や後方など近くにいるだけで努力水準が高まるから。
- ⑤ 後方に人がいるという視線を感じるだけで社会的プレッシャーを受けるから。

問八 傍線部(4)「競争的環境にある人が周囲の影響によって努力水準を高めるかどうか」に対する回答として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 競泳大会においては、自分より遅い選手が隣にいるのが見えているときは、自分も一人で泳ぐときより遅くなる。
- ② 競泳大会においては、自分より速い選手が隣にいるのが見えているときは、自分は一人で泳ぐときより遅くなる。
- ③ 競泳大会においては、自分より速い選手が隣にいても、それが見えていないときは、自分は一人で泳ぐときより遅くなる。
- ④ 競泳大会においては、自分より速い選手が隣にいるのが見えているときは、自分も一人で泳ぐときより速くなる。
- ⑤ 競泳大会においては、自分より速い選手が隣にいて、それが見えていないときに限り、自分も一人で泳ぐときより速くなる。

問九 本文では次の一文が欠落している。㉠～㉥のうち、この一文が入るのに最も適切な位置を、①～⑤より一つ選びなさい。

その意味で、タイム決勝では、隣で泳ぐピアが誰であれ全力を尽くすというインセンティブが選手にはある。

- ① ㉠
- ② ㉡
- ③ ㉢
- ④ ㉣
- ⑤ ㉤

問十 本文の内容と合致していないものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① プロゴルフのトーナメントでは、トッププロ選手でも毎回のホールによって利得と損失を考えることがある。
- ② 損失回避行動において、損失が発生するような局面では、安全策を取らずギャンブルをしがちになる。
- ③ アメリカのスーパーマーケットで、ピア効果を応用して生産性を高めることは、現実的には難しい。
- ④ チーム生産においては、労働者たちは他人の生産性に依存するというタダ乗りを行うことが多い。
- ⑤ 水泳競技では、優秀な選手が自分のチームに移籍してくると、自分たちの努力や技術の向上につながる。

第2問 次の文章は、窪美澄『銀紙色のアンタレス』（『夜に星を放つ』文藝春秋2022所収）からの一文です。本文をよく読んで、以下の問いに答えなさい。

山に向かって走っていた特急電車がいくつかのトンネルを越え、海岸線に沿って走るようになると、左側の車窓いっぱい海が見える。僕は思わずシートから腰を浮かし、窓に鼻をくっつけて海だけを視界のなかに入れていたくなる。小さな子どもみたいに「海！ 海！」と⁽⁵⁾キセリをあげて、隣の誰かに伝えたいくなる。けれど、今は無理だ。隣には、見ず知らずのサラリーマン風の男の人が座っているし、僕はもう小さな子どもではない。

電車が進むたび、見えてくる海は青さを増し、ぎらぎらとした油じみた真夏の太陽をその表面に映している。海は風ぎ。岩だらけの海岸に寄せて割れる波だけが白い。ああ、早く、あの海に全身を浸して、狂ったように海のなかで泳ぎまくりたい。そう考えただけで、股間がすう、とする。性的な意味ではない。シエツトコースターのいちばん高い所で、今まさに落ちようとしているあの瞬間、海で泳ぐことを考えただけで、僕の全身が、やわらかな羽で全身をかすかな力で撫でられているような、そんな気持ちよきに包まれてしまう。

僕は八月八日、真夏に生まれた。獅子座だ。昨日、十六回目の誕生日を迎えたばかり。夏に生まれたからなのだろうか、僕は夏が好きだ。夏が来ると、⁽¹⁾やっと自分の季節がやってきたという気がする。どんなに気温が上がったっていい。

自分のマンションがあるこちやこちやと家の並んだあのあたり、東京特有の湿度と、エアコンの室外機から噴き出す熱風、アスファルトが溶けそうな真夏日、飲んだ水が尿になる暇もなく、汗となって出て行ってしまうようなそんな日だって僕は大好きなのだ。

反対に冬なんてもうまったくだめだ。体は縮こまったようにかたくなるし、そもそも寒さというものに極端に弱い。一日中、毛布にくるまって家から出たくなくなる。とはいえ、そうも言ってははいられないので、(中略)シャツやズボン下を三枚重ねて着て、Xように学校に行っているのだ。冬、雪、と聞いただけで、僕のこめかみはずしん、と重くなる。

こんなに夏が好きなのに、去年の夏は最悪だった。高校受験のための夏期講習、暗い顔をした受験生とともに教室に閉じ込められて、海にもプールにも行けなかった。勉強はつかりしていた。それなのに第一志望の高校の合格率は、三十%しかなくて、死にたくなった。それでもなんとか、第三志望の都立には入れたけれど。

クーラーの効きすぎている教室の中で、十七回目の夏を無駄にしていることが僕はくやしくてたまらなかった。だから、決めたのだ。今年の夏は去年の分も取り戻すように楽しもう、と。

七月末までの水泳部の部活が終わったら、即、海辺にあるばあちゃんの家に行こうと決めていた。母さんは八月に入った途端、父さんが単身赴任している京都に行ってしまった。いつしよに来るように母さんは何度も言った。盆地に張りつくような、あの、じめつとした京都の暑さだって僕は好きなのだ。父さんにだって会いたい。だけど、父さんのいる京都市内には海がない。半ば母さんと⁽⁶⁾ケンカになりながら、絶対に今年はばあちゃんの家に行く、

と僕は母さんの要求をつっぱねた。

この特急電車は、ばあちゃんの住む町に向かっている。到着はあと五分ほどだ。憎いあいつら、ぬるりと僕の体に触れて、痛い思いをさせるあいつら(海月)が出てくる前に僕は死ぬほど海で泳いでやるのだ。それが僕の夏の決意。

「真！」

改札口に向かうとばあちゃんが大声を出して手を振っているのが見えた。

二年ぶりに会うばあちゃんは、二年前に会ったときとそれほど変わらないように見えた。一枚の布を二つに折って、脇の部分だけを縫い、腕と頭が出るところだけ穴を開けたような紺色のワンピースを着て、真っ白の髪を小さくまとめている。腕や足は驚くほど細い。ばあちゃんは母さんの母親なのに、体つきはまったく似ていない。母さんは年齢を重ねるごとに体重も増えて、年中ダイエットと騒いでいるけれど、体重が減る気配はまったくない。けれど、⁽²⁾まわりにいる人にもかまわず、僕を見つけると大声を上げるところとか、笑うと目がなくなってしまうところとか、そういうところはやっぱり親子なんだな、と思う。

「まだ、大きくなったねえ」

そう言いながら、ばあちゃんは腕を伸ばし、僕の頭を撫でようとする。けれど、小さなばあちゃんの腕は僕の頭に届かない。僕はばあちゃんに頭を撫でられたかったから、少し膝を曲げた。お世話になります、とか、ばあちゃんに言いたかったけれど、恥ずかしくて何も言えず、母さんが持たせてくれたおみやげの袋を⁽³⁾ばあちゃんにぐい、と差しだした

「車はこっちだから」

そう言って、ばあちゃんは老人らしからぬスピードで僕の前を歩いていく。駅の構内を出ると、もう太陽の光がじわじわと僕の腕を焼いて、僕はもうそれだけでうれしいのだった。椰子の木の植えられたロータリーをぐるりとまわって、駅のそばにある駐車場に、ばあちゃんは僕を連れていく。

車で満杯の駐車場にばあちゃんの黒い軽自動車が見えた。ばあちゃんがまだ車を運転していることにも驚いたけれど、まだ同じこの車に乗っていることにも驚いた。ばあちゃんが開けてくれたドアから僕は助手席に乗り込む。直射日光で熱せられた黒いシートに触れた太腿が熱い。担いできたティバックを膝の上に載せると、ちよつと僕には窮屈だ。ばあちゃんは僕が子どもの頃と同じように、黒いでかいサングラスをかけ、巧みなハンドルぎほぎで車を駐車場から出した。

ばあちゃんの家は駅から少し山のほうに上がったところにあるけれど、まっすぐ家には帰らずに、僕へのサービスなのか、海沿いの道を走ってくれた。猛スピードで。そう、ばあちゃんは運転が荒い。僕は慌ててシートベルトを締めた。窓を全開にすると、海の香りが車の中を満たした。僕はそれを肺いっぱい吸い込む。海岸には、パラソルが隙間なく並べられているけれど、僕はここでは泳がないから別にいいのだ。波が打ち寄せる音。ああ、早く、全身を海に浸したい。

「ばあちゃん、海！ 海！」

④ ほんとうは電車のなかで言いたかったことを隣のばあちゃんに告げると、

「知ってるよ」と、そつげなく返された。

ばあちゃん自身は二年前とそれほど変わってはいなかったが、ばあちゃんの家は中学生のときに来たときと比べると、やっぱり少し古くなっているように見えた。古い木造家屋の二階建て。家の横にある屋根まで届きそうな育ちすぎたサボテン。広い庭と、その端にある小さな畑。そこにトマトやきゅうりが、ぶらさがっている。庭のすみに見える蛍光イエローの丸いものは、確か、僕が父さんと遊んだフリスビーじゃないだろうか。ばあちゃんの家は、庭も、家のなかも、ちよつと乱雑だ。片づけが苦手なところも母さんと似ている。

引き戸の玄関から家の中に入ると、ひんやりと暗い。太陽光の⑤ ざんげが白く目の前で踊る。ばあちゃんは休む暇もなく台所に立ち、ガス台に火をつける。

「昼は素麺でいいかね」

そう言いながら、食器棚の上にある桐の箱を背を伸ばして取ろうとするので、僕が手伝った。

「あら、助かる」

ばあちゃんは桐の箱の中から素麺の束を片手でつかめるだけつかみ、素麺を束ねている紙のテープを素早く外して、湯が煮えたぎっている鍋の中にはばらばらと放った。

「じいちゃんに挨拶する」

ばあちゃんの家に行ったら、まず仏壇に手土産を置いて、手を合わせるようにと、母さんからくどくど何度も言われて来たのだ。さつき、ばあちゃんに渡した紙袋の中から、カステラの包みを仏壇の前に置き、蠟燭に火をつけて、線香をかぎした。ええと、それから鈴だ。何回鳴らすかわからなかったが、適当に三回鳴らして、手を合わせた。目の前の写真立ての中にいるじいちゃんは僕が小学校に入った年に癌で死んだ。母さんに促され、そつと触れたじいちゃんの手冷たさを僕はまだ覚えている。棺桶のなかでたくさんの花に囲まれているじいちゃんは「ああ、よく寝た」と言つて起き出しそうだった。その棺桶の蓋を釘で閉ざすために、金棺で叩くとまわりの大人たちから促されたとき、子どもの僕は、⑤ 葬式というのはなんだか残酷なものだと思った。

母さんは、ばあちゃんに東京でいつしよに暮らそうと何度も提案しているらしいが、そのたびにばあちゃんはここに死ぬまできると首を縦に振らないらしい。ばあちゃんといつしよに暮らすことに僕だって異存はないが、ばあちゃんこの家がなくなってしまうことを考えると、僕は憂鬱になる。

後ろを振り返ると、ばあちゃんが菜箸^{さいしほし}を持って立っていた。

僕の顔を見て、にっこりと笑う。

「真が帰ってきて、じいちゃんもうれしいだろ」

そう言つてまだ、台所に消えた。

ばあちゃんの茹でてくれた素麺だけでは僕の空腹は満たされなかったので、ばあちゃんはおにぎりを握つてくれた。塩こんぶと梅干を入れた、海苔も巻いていない塩むすび。めち

やくちやうまい。

「真は二階の部屋を使いなよ。朝日^{あさひ}ちゃんはいつ来るの？」

僕は口の中であわてて飯粒を^く咀嚼し、のみこんで答えた。

「メール来てたわ。あとで確認する」

LINEと言ってもばあちゃんにはわからないだろうと思い、⁽⁵⁾「メール」と言い換えた。ばあちゃんもメールならわかる。そうだ、なんでか、朝日が僕がばあちゃんの家にいる間に、ここに来たい、と突然メールをよこしたのだ。朝日は同じマンションに住む幼なじみで、朝日の家と僕の家は幼稚園の頃から仲が良く、小学校の頃までは休日につきしよに過ごすことも多かった。このばあちゃんの家⁽⁶⁾にだって、何度か家族連れで来たことがある。

区立中学まではつきよだったけれど、朝日は僕と違って頭がいいから、大学付属の私立高校に進んだのだった。それぞれがそれぞれの高校に進んでからは、顔を合わせることは減多になくなった。それなのに、朝日は自分の母親から母さんに連絡し、ばあちゃんの家に来る計画を着々と進めているのだった。

「朝日ちゃんは、ばあちゃん⁽⁷⁾の部屋に寝ればいいね。新しい布団も出しておいだから」

ばあちゃんはそう言いながら、素麺のつけ汁をこくりとのんだ。

顔を合わすことはなくなっても、朝日からは時々、LINEが来ていたが、僕はあんまり携帯に触らないから、返信をすることも少なかった。既読にならないと、ふんむくれた顔が何かのイラストのスタンプが送られてきたりする。さつきも、電車のなかで携帯が震えたけれど、あれは多分、朝日からだ。いきなり、ばあちゃんの家に来たいだなんて、あいつも海がそんなに好きだったっけ、とぼんやりと考えながら、僕は三個目のおにぎりを頬張った。

食べ終わった食器をシンクに片付け、

「行ってくるねー！」とばあちゃんに声をかけると、

「そんなに慌てなくても海は逃げないよ」と⁽⁸⁾あきれたような声を出した。

ばあちゃんの家から海までは、なだらかに⁽⁹⁾駈行する坂道が続く。

道沿いに並ぶ家は、子ども用のビニールプールが玄関先に置かれた、ごく普通の民家もあるが、別荘なのだろうか、ベランダが異様に広かったり、ガラス張りのリビングが見えたり、ちよつと変わったつくりの家もある。二年前とそれほど家並みは変わらないが、売り出し中と赤いでかい文字が書かれたポスターが貼られた家も所々に混じる。それからまたしばらく歩いて、だだっ広い畑の中に立った鉄塔のそばまで来ると、その向こうに光る海が見えてくる。

問一 傍線部〈a〉～〈c〉の漢字と同じ漢字を含むものを、①～⑤よりそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | |
|----------|---|---|
| 〈a〉 キセイ | } | <ul style="list-style-type: none"> ① 戦争からギカ^キンする ② 進学をギボ^キウする ③ キミヨウな夢を見る ④ 本をギゾ^キウする ⑤ 冬用のギジ^キを探す |
| 〈b〉 ケンカ | } | <ul style="list-style-type: none"> ① ケンジツな性格だ ② ケンソウから抜^ケけ出す ③ ケンリを主張する ④ ケンサの結果を聞^ケく ⑤ ケンドウの試合をする |
| 〈c〉 ザンゾウ | } | <ul style="list-style-type: none"> ① 売上がゾウカした ② シンゾウの手術をする ③ ゾウゲに彫^ゾ刻をする ④ 昔のエイゾウを見^ゾた ⑤ 部屋をカイゾウした |

問二 漢字の読みをひらがなで書いたとき、本文中傍線部〈A〉・〈B〉の傍線部の読みと最初の一文字が共通するものを、①～⑤よりそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | |
|--------|---|---|
| 〈A〉 咀嚼 | } | <ul style="list-style-type: none"> ① 射^シる ② 巡^メる ③ 反^ヘる ④ 競^ケる ⑤ 凝^ネる |
| 〈B〉 蛇行 | } | <ul style="list-style-type: none"> ① 臆^オ面 ② 施^セ錠 ③ 稼^カ働 ④ 督^{トク}促 ⑤ 妥^ト結 |

問三 空欄 X に入る「様々な思いをしてやっとな進むさま」の意味となる表現として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 這う
- ② 覆う
- ③ 迷う
- ④ 奪う
- ⑤ 縫う

問四 傍線部(1)「やっとな自分の季節がやってきた」とあるが、この表現から読み取れる真の気持ちとして最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 学校の休暇が始まり、家族や友人との時間が増えるので、夏は自分にとって活力が出せる大切な時期だと感じている。
- ② 夏に誕生日を迎え、人生の新しい章が始まったと感じ、今までの消えない人生を取り戻すことができると信じている。
- ③ 夏はただの時期ではなく、活力のある雰囲気や生まれた季節であることから、自分らしさを取り戻すような感覚がある。
- ④ 受験の思い出があるため、今まで夏は好きではなかったが、海に遊びに来たことを機に好きになろうと奮起している。
- ⑤ 冬は風邪をひきやすいため苦手な季節であるが、暑さは体を健康にしてくれることから、夏には特別感を覚えている。

問五 傍線部(2)「まわりにいる人にもがまわず」とあるが、「他人の目を意識せず、気ままな行動をする」の意味を持つ四字熟語として、最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 鶏口牛後
- ② 朝三暮四
- ③ 荒唐無稽
- ④ 付和雷同
- ⑤ 傍若無人

問六 傍線部(3)「ばあちゃんにぐい、と差しだした」とあるが、この表現から読み取れる真の状況として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 挨拶ができずに後悔していると、小さい子を慰めるように頭を撫でてくれた祖母に感謝の気持ちが芽生え、おみやげを素早く渡すことで距離を埋めようとした。
- ② 祖母への感謝の気持ちは持っているが、言葉で表すことに抵抗があり、照れくささをこまかくすように、無言でおみやげを渡すという無愛想な振る舞いになった。
- ③ 小さい子どもではなくなったのに、祖母に頭を撫でられているのが恥ずかしくなり、急いで母から持たされたおみやげを渡すことで照れくささを隠そうとした。
- ④ 祖母に会えた嬉しさを言葉で表現できず、せめて感謝の気持ちとして母が持たせたおみやげを早く渡したいという焦りから、ぶっきらぼうな渡し方になった。
- ⑤ 成長して大きくなった自分と比べて、腕や足が細くなり小さくなった祖母を見るといたたまれなくなり、早くおみやげを渡して、その場を立ち去ろうとした。

問七 傍線部(4)「ほんとうは電車のなかで言いたかったことを隣のばあちゃんに告げる」とあるが、この表現から読み取れる真の状況として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 真は電車の中ではしゃぐ声を出したかったが、すでに小さな子どもではなくなった自分が、車内で大声を出すのは場にふさわしくないと抑えたが、祖母の車の中なら大声を出しても咎める人はいないと思ったため、思い切り叫んだ。
- ② 電車から海が見えたとき、真は海を見て感動し、隣にいる人と感動を共有したくても大人びた言葉が思いつかず、伝えるのを断念したが、祖母なら子どものような稚拙な言葉でも理解してくれるため、その感動を素直に言葉にできた。
- ③ 電車の中で、真は感動して隣の乗客に話しかけたい気持ちになったが、知らない人に声をかける勇気が出ず、思いとどまり、小さい頃から可愛がってくれた祖母の前では、思い切って感情を表に出せると思い、その気持ちを言葉にした。
- ④ 電車の中で、真は海に対しての感動を素直に表現したい衝動はあるものの、成長した自分の立場や周囲の状況を考え、無邪気になるまうことを自制したが、祖母の前では小さな子どもに返ることができ、その感動を素直に言葉にできた。
- ⑤ 電車が海沿いに差し掛かったとき、真は思わず海への感動を隣の人に伝えようとしたものの、上手く言葉が発せず、海を黙って見ていることしかできなかつたが、祖母の前では童心に戻れたことで滑らかに感動を表現することができた。

問八 傍線部(5)「葬式というのはなんだか残酷なものだ」とあるが、そのように感じた理由として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 棺桶のなかで花に囲まれている祖父は眠っているだけのように見えたが、蓋に釘を打つことで祖父が永遠に閉じ込められたように感じられ、瘧という病気の恐ろしさが一気に込みあげてきたから。
- ② 釘を打つことで、祖父が戻ってこないことを実感するとともに、死を「最終的な別れ」として受け入れる象徴的な行為を目の当たりにし、それが子どもにとっては冷たく厳しい現実を感じられたから。
- ③ 冷たくなって動かない祖父の体に触れ、まるで眠っているかのような姿がかえって「起きない」という現実と強烈な対比をなし、死というものをどうにかして避けたいと子どもながらに思ったから。
- ④ 祖父がまるで「よく寝た」と言っただけに見えるのに、蝋燭に火をつけて、線香をかぎすという別れを象徴する儀式的な行為が、愛する人との別れを強制するような「残酷さ」として映ったから。
- ⑤ 祖父の死を受け入れられず、ショックを受けているところに、棺桶に金槌で釘を打って、祖父との思い出を無かったことにするという儀式が、いかに死が絶対的で避けられないものかを感じさせたから。

問九 傍線部(6)「メール、と言い換えた」とあるが、この表現から読み取れる真の状況として最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 真は祖母に「LINE」を使っていることを知られたくなかったため、祖母でも知っている「メール」を使うことで話題をそらそうとした。
- ② 真自身が「メール」のほうが使い慣れているため、祖母にも「LINE」ではなく、理解しやすいような「メール」に置き換えて話を進めた。
- ③ おにぎりを急いで食べたため、のどに詰まりそうになり、「LINE」の発音がうまくできずに、慌てて言いやすい「メール」に置き換えた。
- ④ 祖母には「LINE」より「メール」の言葉のほうが馴染みがあるため、祖母がわかる表現にすることで会話を円滑に進めようと配慮をした。
- ⑤ 携帯を持たない祖母は「LINE」を理解できず、真も最新の技術を説明するのが億劫なため、意味が分かっている「メール」に言い換えた。

問十 傍線部(7)「あきれたような声を出した」とあるが、この表現から読み取れる祖母の気持ちとして最も適切なものを、①～⑤より一つ選びなさい。

- ① 祖母にとって、海はいつでもそこにあるものであり、急いで行く必要がないのに、真がすぐにでも出かけたがっている様子を見て、その熱意にやや驚いている。
- ② 祖母にとって海は怖いものであるため、早く海に入りたくて、食器を片付けた後にすぐに海に向かおうとはしゃいでいる真の気持ちが信じられずあきれている。
- ③ 中学まで一緒だった子が遊びに来たがっている理由が分からない真に祖母はあきれ、なかなかメールの返信をせず、海へ行くことを優先したことに驚いている。
- ④ 海は祖母にとって身近なものであり、すぐに行けるところにあるのに、真が食器を洗いもせずに飛び出すように出かけるのを見て、その行動に驚きあきれている。
- ⑤ 慌てて行っても海は逃げないのに、仲の良い子が来ることよりも、海に行くのを楽しみにしている真の姿を見て、祖母は信じられない気持ちになっている。

